

2025年(令和7年)
1月21日 火曜日
第1968号

京都自動車新聞



京ト協女性部会 千羽鶴寄贈
京整振理事会で青年部会名称変更
自販連 中古車キャンペーン表彰
京レ協が理事会と青年部幹事会
◀アドバンスクラブが海外事情学ぶ

2
4
6
7
8

発行所 京都自動車新聞社 京都市伏見区竹田向代町51-5(京都自動車会館内) 電話(075)672-0552 ファクス(075)682-0205 メール access@kyotojidoshanp.jp

新社名はアスコネックス

「『つながる歓び』を、明日につなぐ」をコンセプトに、京滋ユアサ電機(株)(下京区、林晃生社長)が1月1日付で社名変更した。新たな社名は、AS(明日)、CONNECT(つながる)、EXPAND(広げる)の三つの単語を組み合わせたアスコネックス(株)。1934年の創業以来、京都と滋賀の地に根差し、バッテリー、自動車電装品、携帯電話などに関する事業を手掛けてきた同社が今年、次なる時代を見据え、歩調を早める。

京滋ユアサ

1日付でマルチパーパス化受け

新社名には「社員、お客さま・お得意先さま、仕入れ先さまの『三宝(さんぼう)』がより深く結び付き、それを分け隔てなく、大事にしていく」という思いを込めた(林社長)。「三宝」とは、聖徳太子が十七歳の憲法に定めた「篤く三宝を敬え」にあやかったもので、同社は創業期から、この教えを思想の基盤にしているという。林社長は「この『三宝』が、いづれも上向けば、すなわち地域が発展し、『四宝良』を生み出す」と



アスコネックスの林社長

の視方を示す。同社が社名変更にかじを切ったのは、事業領域を広範化していく中で、社名と実状にギャップが生じてきたためだ。同社はM&A(企業の合併・買収)などで、IT関連の日本ソフトウェアアプレイン、アドバ、ネクストサイエンスをグループ化し、主にデジタル分野でのアプローチを強めてきた経緯がある。「五十年名乗ってきた社名なので、愛着もあれば一定の知名度もある。何より初めてお会いする人でも

年の年の瀬。24年年初に開かれた社員総会で社名変更の方針を「電撃発表」し、4月からフランディング専門のコンサルタントによるサポートのもと、本格的に改名へと乗り出した。社内アンケートを実施後、コンサルタントが60パターンのネーミング案を抽出。夏ごろまでにそれを現社名に絞り込み、すぐさま商標登録した。秋口には、社内プロジェクトチームが発足。新社名を全社に浸透させる手立てや、業



界に貢献するための方法論、力を注いでいく。カテゴリーなどを討議する中で、行動指針や考え方が、いま一度リセットできた。それでも、社名変更の際の会社の名付け方には、デザイン重視のネーミングにする、情緒や理念を名称に忍ばせる、事業軸にウエイトを置いて命名する、など、幾つかの方向性がある。林社長は「デザイン性を高めて、独り善がりになるのも困るし、情緒的になり過ぎてイメージが商売から遠ざかるのも違和感があった。だから、この二つを

兼ねてもらう名前にしたかった」と振り返る。今年のテーマは「発信」シナジー効果で成長へ 同社にとって新たな船出の年となる25年、林社長が掲げるテーマは「発信」だ。各種媒体を通じて新社名をアナウンスするとともに、スタッフ一人一人が顧客にそれを丁寧に伝えていくことで「自分たちが歴史のページを『引き継ぐ』のではなく『創る』と感じてくれるはず」と期待を寄せる。 相業に限らず、ウェブコンテンツ分野では今後、とりわけパワーポイントによる映像制作で拡販を見込み、業務管理ソフトウェアアカテグリーはパッケージとカスタマイズを掛け合わせた優位性を押し出していく。携帯電話ビジネスも、国の「デジタル活用支援推進事業」を足掛かりに、顧客との接点を増やせるばかりでなく、スマートフォンでの投資や資産形成のサポートなどサービスの拡張性が高い。だが、林社長は「『この事業を成長させるか』ではなく、『グループにどうシナジーを生み出すか』が大事。各分野のお客さまと、別のセクションでもお取引できれば、そこにシナジーが生まれる。これこそが成長領域」と語る。

創業からこれまでの同社の軌跡



同社の起りは、今から91年前の1934年までさかのぼる。同年6月、林鉄美氏が蓄電池・電装品販売修理業の林電機工業所(現Gユアサ)の京滋地区の総代理店、54年に日本電装工業(現デンソー)の指定サービスステーション、56年に澤藤電機、日興電機工業の指定サービスステーションとしての営業をそれぞれ開始し、同年8月、本社を現住所に移転した。 68年5月には、湯浅電池製品の卸売業を営んでいた

社内別法人の京滋ユアサ電池販売と合併し、社名を京滋ユアサ電機に変更。林社長によると、このころメーカーの資本政策と自社の進むべき道筋をめぐって、社内でも繰り返し議論が行われていたのだという。 同年、南営業所を南区に開設。76年には滋賀営業所を津山市に新設し、90年草津市に移転。 91年、エヌ・ティ・ティ関西移動通信網(現NTTドコモ)と代理店契約を結び、携帯電話事業に本格参入、京都地区で3店舗、滋賀地区で6店舗のドコモショップをオープンした。 2007年京都支店(本社工

場)、08年滋賀支店にデンソーダイアグネシオンを開設し、電子制御分野の先進技術に対応した体制を確立。 また、18年に企業主導型企業内保育所「守山コドモの森」をドコモショップ守山店に併設し、20年には京都三名水の一つ、佐女牛井(さめが井)と同じ水脈からくみ上げた井戸「さめが井の水」を本社前に設置するなど、社会貢献・地域貢献活動にも力を注ぐ。 20年以降は、IT関連企業3社をグループ化し、業容をデジタル方面に拡大。そして今年1月、アスコネックスに生まれ変わった。

“つながる歓び”を、明日につなぐ
ASCONNEX
2025年1月1日より、京滋ユアサ電機株式会社はアスコネックス株式会社に社名を変更し、新しい一歩を踏み出しました。
1934年の創業以来、私たちは京都と滋賀を中心に、バッテリー・自動車電装品・携帯電話分野の事業を展開し、地域とともに成長してまいりました。この90年、大切にしてきたのは、社員・お客様・仕入れ先様との心の“つながり”です。
これからも、“つながり”をさらに広げ、事業を通じて、人と人、車と車、人と車が“つながる歓び”を創出し、人と車のもっと安全・安心・快適な毎日を、より多くの皆様に届けてまいります。
明日(AS)につないで(CONNECT)広げていく(EXPAND)。
「ASCONNEX(アスコネックス)」のさらなる挑戦に、ご期待ください。
アスコネックス株式会社 京都市下京区五条通堀川東入小泉町113-1 www.asconnex.com